

校内研修計画

甲州市立 祝小学校

1 学校課題

本校は、全学年1クラスで、各学級とも20名前後の小規模校であり、異学年の交流が多く、児童みんなが仲の良い家庭的な雰囲気のある学校である。

学習面を考えてみると、真面目に学習する姿勢は見られるものの、発言への意欲は十分とは言えず、自分の思うことをはっきりと積極的に話すことのできる児童は少ない。読書活動についても、縦割り読書や親子読書などに取り組み、推進してきているが、「読書が大好き」と答える児童は、思いの外少なく、家庭で読書をする習慣がない児童の姿が見られる。

昨年度、本校では、「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして～書く活動の指導の充実と学びの場づくりを通して～」というテーマの下、互いに学び合い、指導技量を高め合う職員集団を目指して、全員が提案者となって、研究に取り組んできた。また、児童が互いに学び合う場づくりとして、「学びの流れ」と「さまざまな学習場面における学習形態」について研究し、授業の中で実践してきた。

年度末の反省では、「学びの場」によって、児童は、友だちの考えを知ったり、自分の思いや考えを深めたりすることができ、様々な考えや表現があることを学ぶことができた。さらに、「学びの場」の活用によって、一人ひとりの児童が自分の言葉で自信をもって発表することができるようになってきたと、大きな成果があったことを全員で確認した。研究授業の中での子どもたちの姿は、それぞれ目標にほぼ到達するものであったが、日常生活の中においてテーマが達成されるためには、まだまだ課題が山積されていることも加えて確認された。そして、これからは、さらに書く力を伸ばすこと、また、「学びの場」における「話し手や聞き手のあり方」・「グループ内での話し合いの進め方」・「グループ活動における教師の支援の仕方」について、研究を深めていくことで表現する力の育成へとつなげていけるよう研究を向上させていきたいとの意見が出された。

2 研究主題

「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」
～「書く活動」と「学びの場」を充実させた授業づくりを通して～

3 主題設定の理由

本校の学校教育目標である「心身ともにたくましい子どもの育成～かしこく・やさしく・たくましく～」を具現化するためには、私たち教職員は、自己の指導技量を高められるよう、常日頃から努力していくことが必要である。子どもたちの「自分を成長させたい・高めたい」という欲求に応えるために、自らの指導技量を高めることは教師の使命であるともいえる。私たちは、日々教材研究を行い、わかる授業、楽しい授業の充実した授業実践に努め、学校内外の研修にも励んでいるところである。

本校の児童は明るく素直で、何事にもまじめに取り組み、友だちとも協力し合い、仲よく活動することができる児童が多い。また、全校で取り組んできた「話すこと・聞くこと」のきまりを身につけ、決められたことを発表できるようになってきている。しかし、「根拠を明確に示せず、自分の考えに自信がもてない。」「既習したことと実生活との関連性をもてていない。」「答えを導き出せるものの理由づけが不足している。」という児童の実態もある。

そこで、「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童」をめざして、21年度は発表の仕方を中心に研究に取り組んできた。また、22年度は「自分の思いや考えをどのようにまとめて、どのような順番で発表したらよいか。」といった具体的な方法や手順を指導し、発表の元となる自分の思いや考えを自分が納得する形でまとめる力をつけさせるために「書く活動」について、研究を進めてきた。そして、23年度は、「学びの場づくり」について研究し、一人ひとりの発表や聞く活動からさらに一歩進め、自分の思いや考えを交流して学び合い、さらに自分の思いや考えを深めたり、豊かなものにしたりするために、どの学習内容でどのような場面設定と学習形態が有効なのかということの研究してきた。今までの研究で自分の思いや考えを積極的に相手に伝えるためには、「書く活動」がとても重要な要素であることと、グループ活動を通して学びの比較化や相対化を図る中で、一人ひとりの個を磨く場にもなることがわかった。

しかし、前に述べたような児童の実態を改めていくために、今まで取り組んできた「書

く活動」を有効に取り入れ、さらに互いの考えを交流し、自分の考えをより確実なものにする「学びの場」をつくり、自分の表現に活かすことで、もっと自信をもって積極的に相手に伝えたいという児童を育てていきたい。そして、本年度も昨年度に引き続き、一人一実践を基本とした授業実践を公開し、研究会を通して教職員が互いに学び合い高め合えるようにしていきたい。

4 研究の具体的内容と方法

具体的内容

○一人一実践

「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」、理論研究や「書く活動」や「学びの場」の具体的な取り組みについて

Q - Uの実施(6月, 12月)と分析・活用の充実

指導主事や講師を招聘しての学習会 「Q - Uの分析・活用について」

方法

一人一実践のうち、2本は共同研究とし、ブロックで事前に検討する。

研究授業は、共通の視点【自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童】をめざし、「書く場面」と「学びの場」を授業の中に入れた実践を行う。

年度初めに、児童の国語に関する実態調査を行う。その結果に基づき、児童の「自分の思いを伝える力」の向上のために取り組むことを学校体制で確認し、年間を通して実施していく。また、担任が「話す・聞く・発表の仕方」について、年に3回児童の実態をチェックし、年度末に児童の変容を見取り、1年間の取り組みの反省を行う。

個に応じた指導の充実をさらに推進するために、Q - Uを実施し、分析・活用をしていく中で児童理解を深め、学び合う学級集団づくりについて研究を行う。

5 年間校内研修計画

研究主任 高野恵美子

回数	月 日	研究の内容	T・C 要請
第1回	4月16日	研究主題・内容・方法等の検討	
第2回	4月18日	研究計画の検討・研究計画樹立	
第3回	5月 9日	実態調査の項目の検討	
第4回	5月23日	実態調査の考察と主題を達成するための具体的な取り組みについて	
第5回	5月30日	「書く活動」と「学びの場」についての具体的な取り組みについて 「話す・聞くチェックシート」について 授業案の作成の仕方について	
第6回	6月27日	「授業づくり」について	
第7回	7月 4日	Q - Uの活用の仕方についての学習会	
第8回	8月22日	教育課程講習会の還流報告 Q - Uの分析と今後の取り組み	
第9回	9月 5日	ブロック授業実践の授業案検討	
第10回	9月12日	ブロック授業実践第1回目	2年 高野恵美子 5年 田邊 博幸
第11回	10月 3日	ブロック授業実践第2回目	1年 赤星 美佐 4年 高石 圭子
第12回	10月 4日	特別支援学級授業実践	八巻 恵子
第13回	10月10日	ブロック授業実践の成果と課題	
第14回	10月17日	共同研究の授業案づくり	
第15回	10月24日	第3学年国語科授業案検討	
第16回	10月31日	授業実践(共同研究・研究授業)	3年 檜垣 貴子
第17回	11月 7日	第6学年国語科授業案検討	
第18回	11月21日	授業実践(共同研究・研究授業)	6年 中村 英彦
第19回	12月12日	「話す・聞くチェックシート」について 研究のまとめ方について	
第20回	1月30日	2回目のQ - Uと実態調査の振り返りについて 研究の成果と課題	
第21回	2月20日	研究のまとめ、来年度の方向性	
第22回	2月27日	紀要の作成	